



# Sun Blade™ X6220 サーバー モジュールのオペレーティング システムインストールガイド

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

部品番号 820-2095-10  
2007年7月、改訂A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。およびその他の国における商標または登録商標です。

本書および本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。米国 Sun Microsystems 社またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティーソフトウェア(フォントに関するテクノロジーを含む)は、著作権を有する当該各社より米国 Sun Microsystems 社へライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, Sun Blade, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーが採用されています。

AMD Opteron は Advanced Microdevices, Inc. の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザーインターフェースは、米国 Sun Microsystems 社がユーザーおよびライセンス被許諾者のために開発したものです。米国 Sun Microsystems 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。米国 Sun Microsystems 社は、Xerox グラフィカルユーザーインターフェースに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する米国 Sun Microsystems 社のライセンス被許諾者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許諾者は米国 Sun Microsystems 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザーは、米国 Sun Microsystems 社の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

---

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, Californie 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. a les droits de propriété intellectuelle relatants à la technologie qui est décrit dans ce document. En particulier, et sans la limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains énumérés à <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets plus supplémentaires ou les applications de brevet en attente dans les Etats-Unis et dans les autres pays.

Ce produit ou document est protégé par un copyright et distribué avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Le logiciel détenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caractères, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, Sun Blade, et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

AMD Opteron est une marque de fabrique ou une marque déposée de Advanced Microdevices, Inc.

L'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox pour la recherche et le développement du concept des interfaces d'utilisation visuelle ou graphique pour l'industrie de l'informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface d'utilisation graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciées de Sun qui mettent en place l'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et qui en outre se conforment aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISÉE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



リサイクル  
してください



Adobe PostScript

# 目次

---

はじめに ix

## 1. 概要 1

Sun Blade X6220 サーバーモジュールへのオペレーティングシステムの  
インストールの概要 1

準備すべき事柄 1

決定すべき事柄 2

次のステップ 3

## 2. Sun Installation Assistant CD 7

Sun Installation Assistant CD の概要 7

エラーメッセージ 8

ログファイル 8

Sun Installation Assistant の使用 9

▼ Sun Installation Assistant CD を使用する 9

PXE ブート用の SIA の設定 13

▼ PXE ブート用に SIA を設定する 13

▼ PXE サーバーから SIA をブートする 14

### 3. RedHat Enterprise Linux のインストール 15

RedHat Enterprise Linux のインストールについて 15

RedHat のインストールと管理ドキュメント 16

RHEL インストールの作業マップ 17

RHEL をインストールする準備 17

追加ソフトウェアアップデートまたはパッチ 17

アップデートされたメディアキットの入手 18

RHEL の配布メディアからのインストール 18

開始前のご注意 18

必要なアイテム 19

▼ ローカルメディアから RHEL をインストールする 19

RHEL オペレーティングシステムのアップデート 20

開始前のご注意 20

▼ RHEL ソフトウェアをアップデートする 20

リモートコンソールアプリケーションによる RHEL OS のインストール 21

▼ ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して  
インストールする 21

RedHat Enterprise Linux および PXE 23

作業マップ 23

RHEL の PXE インストールをサポートするためのネットワークの  
事前設定 24

必要なアイテム 24

ツールとドライバの CD イメージのダウンロード 24

▼ ツールとドライバの CD からファイルをコピーする 25

▼ DHCP サーバーを設定する 25

▼ DHCP サーバーに portmap をインストールする 26

▼ DHCP サーバー上の TFTP サービスを設定する 26

▼ neopxe ブートサーバーデーモンをインストールおよび設定する 27

▼ DHCP サーバー上の NFS サービスを設定する 29

- ▼ ファイアウォールを無効にする 29
- RHEL のネットワークからのインストール 30
- PXE サーバーでの PXE インストールイメージの作成 30
  - 開始前のご注意 30
  - 必要なアイテム 31
- ▼ RHEL イメージを PXE サーバーに作成する 31
- RHEL の PXE サーバーからのインストール 33
  - 開始前のご注意 33
- ▼ PXE サーバーから RHEL をインストールする 33
- RHEL SCSI ドライバのアップデート 34
  
- 4. SUSE Linux Enterprise Server 10 のインストール 35**
- SUSE Linux Enterprise Server 10 のインストールについて 35
  - SUSE Linux のインストールと設定ドキュメント 35
  - SLES 10 インストールの作業マップ 36
- SLES 10 オペレーティングシステムのアップデート 37
  - ▼ SLES 10 オペレーティングシステムをアップデートする 37
- 配布メディアからの SLES 10 のインストール 38
  - 開始前のご注意 38
  - 必要なアイテム 38
  - ▼ 配布メディアから SLES 10 をインストールする 38
- リモートコンソールアプリケーションによる SLES 10 OS のインストール 39
  - ▼ リモートコンソールから SLES 10 をインストールする 39
- PXE サーバーでの SLES 10 PXE インストールイメージの作成 40
  - ▼ PXE サーバーで SLES 10 イメージを作成する 41
- PXE サーバーからの SLES 10 のインストール 42
  - 開始前のご注意 42
  - ▼ PXE サーバーから SLES 10 をインストールする 43

<b>5. Solaris 10 のインストール</b>	<b>47</b>
Solaris OS のインストールについて	47
概要	47
Solaris 10 関連の情報の場所	51
Solaris OS をインストールする準備	51
インストールの前提条件	52
GRUB 環境でのサーバーのブート	53
PXE によるネットワーク経由でのサーバーのブート	53
開始前のご注意	54
▼ PXE を使ってサーバーをネットワーク経由でブートする	54
配布メディアからの Solaris OS のインストール	54
開始前のご注意	55
▼ 配布メディアから Solaris OS をインストールする	55
シリアルコンソールによる Solaris OS のインストール	56
開始前のご注意	56
▼ シリアルコンソールを使って Solaris OS をインストールする	56
<b>索引</b>	<b>59</b>

# 表

---

表 3-1	RHEL の関連ドキュメント	16
表 3-2	RHEL インストールの作業マップ	17
表 5-1	Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップ	49
表 5-2	最低システム要件	49
表 5-3	インストール方法	50





# はじめに

---

本書『Sun Blade X6220 サーバーモジュールのオペレーティングシステムインストールガイド』では、サーバーモジュールを使用できる状態にするまでの手順 (オペレーティングシステムのインストールとソフトウェアの初期設定) を説明します。

---

## 製品のアップデート

Sun Blade X6220 サーバーモジュール製品のアップデートは、次の Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.sun.com/servers/blades/x6200/downloads.jsp>

---

## 関連ドキュメント

Sun Blade™ X6220 サーバーモジュールのドキュメントセットの説明は、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、Sun Blade X6220 サーバーモジュール製品の次のドキュメントサイトをご覧ください。

[http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/blade\\_servers/blade\\_x6220/index.html](http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/blade_servers/blade_x6220/index.html)

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun ハードウェアのすべてのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Solaris およびその他ソフトウェアのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com>

システムにプリインストールされている Solaris については、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

---

## UNIX コマンドの使い方

本書には、基本的な UNIX<sup>®</sup> コマンドや、システムのシャットダウンや起動、デバイスの設定などの手順に関する情報は含まれていないことがあります。このような情報については、次のドキュメントを参照してください。

- システム付属ソフトウェアのドキュメント
- <http://docs.sun.com> に掲載されている Solaris オペレーティングシステムのドキュメント

---

## サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

---

## 表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% <b>su</b> Password :
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『User's Guide (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

\* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

---

## コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、次に示す本書のタイトルと部品番号を記載してください。

Sun Blade X6220 サーバーモジュールのオペレーティングシステムインストールガイド、部品番号、820-2095-10



## 概要

---

---

# Sun Blade X6220 サーバーモジュールへの オペレーティングシステムの インストールの概要

サポートされているオペレーティングシステム (OS) の配布方法にはいくつもあり、それぞれに何種類かのインストール方法があります。このセクションは、あくまで一般的なガイドで、詳細な手順については参照先の手順に従ってください。

---

**注** - 本書では、サポートされている Solaris OS と Linux OS のインストール方法のみを説明します。Windows Server 2003 を Sun Blade X6220 サーバーモジュールにインストールする手順については、『Sun Blade X6220 サーバーモジュールの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』(820-2100) を参照してください。

---

## 準備すべき事柄

次の準備を完了してから、インストールを開始してください。

- サーバーハードウェアを設置します。
- (省略可) サービスプロセッサを設定します
- IP アドレスおよびネットマスクなどの必要な情報を収集します。
- (Linux のみ) ドライバ CD を作成するか、Sun Installation Assistant を用意します (推奨)。使用している Linux OS のドキュメントを参照するか、Sun Installation Assistant (SIA) については第 2 章を参照してください。

## 決定すべき事柄

また、次の事項を決める必要があります。

- Sun Blade X6220 サーバーモジュールにインストールするオペレーティングシステムの種類

Solaris OS	Red Hat Enterprise Linux OS	SUSE Linux Enterprise Server
Sun Blade X6220 サーバーモジュールでは Solaris 10 がサポートされています。	Version 4 U4 以降 (64 ビット) がサポートされています。	Version 10 以降 (64 ビット) がサポートされています。

- ディスクレスブートのためのサーバー設定

オペレーティングシステム	ディスクレス設定関連文書
Solaris 10	「 <a href="#">Solaris OS のインストールについて</a> 」(47 ページ)、または『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』( <a href="http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323">http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323</a> ) を参照してください。
RedHat Linux	『RedHat Enterprise Linux System Administration Guide (RedHat Enterprise Linux システム管理ガイド)』( <a href="https://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/">https://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/</a> ) を参照してください。

- インストールする方法

方法	Solaris	RedHat	SLES
ハードディスクにインストール済み	可	不可	不可
USB 接続の外付け CD/DVD ドライブを介して、サーバーモジュール上の配布メディアからインストール	可	可	可
KVMS により配布メディア (CD/DVD) からインストール	可	可	可
PXE を使用するネットワークからインストール	可	可	可

---

**注** – Sun Blade X6220 サーバーモジュールには、業界標準の KVMs デバイスを、USB ポートを使って、または ILOM リモートコンソールアプリケーションを介したりダイレクトを使って接続できます。USB 接続をシステムにセットアップする手順は、サーバーハードウェアに関するマニュアルを参照してください。ILOM リモートコンソールアプリケーションを使ってリモートの KVMs をサーバーに設定する手順は、『Sun Blade X6220 Server Module System Management Guide (Sun Blade X6220 サーバーモジュールシステム管理ガイド)』(820-0280) を参照してください。

---

使用している OS に関連する手順については、本書の該当する章を参照してください。

■ オペレーティングシステムおよびドライバのアップデートの必要の有無

通常は、オペレーティングシステムのインストールすると、アップデートが必要になります。詳細は、使用している OS について説明している章を参照してください。

## 次のステップ

本書では、OS のインストールについての詳細情報を説明しています。使用している OS について説明している章を参照してください。

また、オペレーティングシステムに関するインストール、管理、および設定に関するドキュメントも揃えておいてください。これらのドキュメントは通常、マニュアル冊子として配布メディアに付属しているか、メディアに PDF ファイルとして含まれています。多くの場合、最新版のドキュメントは、OS ベンダーの Web サイトからダウンロードできます。





# パート I

---

このパートでは、Linux ベースのオペレーティングシステムおよび関連ユーティリティのインストール方法を説明します。Sun Installation Assistant (SIA) を使ってインストールすることをお勧めします。このパートには、次の章があります。

- [Sun Installation Assistant CD](#)
- [RedHat Enterprise Linux のインストール](#)
- [SUSE Linux Enterprise Server 10 のインストール](#)
- [RHEL の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定](#)



## Sun Installation Assistant CD

---

### Sun Installation Assistant CD の概要

---

**注** – Sun Installation Assistant (SIA) CD は、ILOM リモート CD-ROM 機能およびリモートコンソールアプリケーションにより、リモートで使用できます。詳細は、「[ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用してインストールする](#)」(21 ページ)を参照してください。

---

SIA CD は新しいシステムに同梱されています。この CD を使用して、サポートされている Linux オペレーティングシステム (OS) を Sun Blade X6220 サーバーモジュールにインストールします。CD には、品質保証テスト済みの Sun 対応ドライバセットが収められています。

SIA CD を使用することで、オペレーティングシステム、必要なドライバ、および追加のソフトウェアをシステムにインストールできます。SIA を使用することにより、ドライバ CD を作成する手間が省けます。

**注** – SIA CD によって、自動的に OS がインストールされるわけではありません。RedHat Enterprise Linux と SUSE Linux Enterprise Server のインストールに関するセクションで説明する手順に従ってインストールを行う必要があります。ただし、ドライバ CD を作成する必要はありません。SIA によって、Sun 対応ドライバが自動的にインストールされます

---

SIA は次の作業を実行します。

- システム上のハードウェアを識別します。
- オペレーティングシステムをインストールします。

- ドライバおよびプラットフォームに固有のソフトウェアを識別してインストールします。

必ずしも SIA CD を使用する必要はありませんが、この CD を使用した方が Linux を簡単にインストールできます。

## エラーメッセージ

SIA にエラーまたは予期しない状態が発生した場合には、エラーメッセージが生成されます。次に、エラーメッセージの例を示します。メッセージはさまざまですが、いずれもわかりやすい内容です。

You have inserted Disc 3 but the system requires Disc 2.Please insert Disc 2. (Disc 3 を挿入しましたが、システムには Disc 2 が必要です。Disc 2 を挿入してください)

サポートされていない Linux バージョンの SIA を使用した場合は、次のエラーメッセージが表示されます。

```
The media you have provided is not a release that is supported by Sun
Microsystems, Inc. on this platform.You cannot use the Sun
Installation Assistant to install this product and associated
software.
```

(挿入したメディアのリリースは、このプラットフォームの Sun ではサポートしていません。Sun Installation Assistant を使ってこの製品および関連ソフトウェアをインストールできません)

このような場合は、次のいずれかを実行します。

- サポートされた製品をインストールするには、「Back (戻る)」をクリックしてから適切なメディアを挿入します。
- このサポートされていない製品をインストールするには、「Exit (終了)」をクリックして SIA を終了してから、システムをリブートします。これで、サポートされていない製品を通常どおりインストールできます。

## ログファイル

SIA のログファイルは、新たにインストールしたシステムの `/root` ディレクトリに書き込まれます。このログファイルを確認するには、テキストエディタで次のファイルを表示します。

```
/root/SunInstallationAssistant.log
```

---

# Sun Installation Assistant の使用

ここでは、Sun Installation Assistant (SIA) を使用して、サーバーに Linux をインストールする方法を説明します。

---

**注** – SIA によって OS がすべて自動的にインストールされるわけではありません。ただし、ドライバ CD を作成する必要はありません。これは SIA が自動的に、Sun 対応のドライバをインストールするためです。

---

SIA は次の方法でブートできます。

- ローカル CD-ROM
- リモート CD-ROM (リモートコンソールと KVM リダイレクトを使用)
- PXE ネットワークブート

---

**ヒント** – LAN 上のネットワークイメージからインストールすると、ローカルまたはリモートの CD-ROM からインストールする場合に比べて高速でインストールできます。

---

## ▼ Sun Installation Assistant CD を使用する

---

**注** – SIA により最新のシステムアップデートをインストールする場合は、一部のネットワーク設定情報を入力する必要があります。続行する前に次の[ステップ 9](#)を参照してください。

---

1. SIA CD をローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブに挿入します。PXE ブートを使用する場合は「[PXE ブート用に SIA を設定する](#)」(13 ページ)を参照してください。
2. サーバーをリブートします。  
サーバーは SIA を使用してブートします。この処理には数分かかることがあります。まず、ソフトウェアライセンス契約の画面が表示されます。
3. 「Accept (同意する)」または「Decline (同意しない)」ラジオボタンを選択して契約条件に同意するかどうかを指定し、「Next (次へ)」をクリックして先に進みます。  
ライセンスウィンドウの下までスクロールし、「Accept (同意する)」ラジオボタンをアクティブ状態にします。契約条件に同意しない場合は SIA が終了し、サーバーをリブートするプロンプトが表示されます。

4. 「Welcome (ようこそ)」画面が表示されたら「Next (次へ)」をクリックします。
5. 「Remote Update (リモートアップデート)」画面で「Remote Update (リモートアップデート)」を選択し、「Next (次へ)」をクリックすると SIA によりアップデートの有無が確認されるようになります。この機能を無効にするには、「No (いいえ)」をクリックしてから「Next (次へ)」をクリックします。

ステップ 9 で、使用している OS 用の最新のアップデートがダウンロードされ、アップデートが一覧表示されます。
6. システムハードウェアの識別処理が開始されます。

システムがスキャンされ、プロセッサと合計メモリが表示されます。
7. 「Next (次へ)」をクリックします。
8. SCSI デバイスのスキャンが開始されます。結果が表示され、終了すると自動的に次の画面に進みます。

ユーザー入力はありません。
9. SIA によりリモートアップデート (ステップ 5) が実行されるように選択した場合は、一部のネットワーク設定情報を指定してネットワークを有効にする必要があります。
  - a. アクティブなネットワークインタフェースを選択します (例: eth0)。
  - b. 設定方法を選択します (dhcp または静的)。

静的な方法を選択した場合は、必要な情報 (IP アドレス、ゲートウェイなど) を入力します。
  - c. sia-updates.sun.com など外部サイトへのアクセスに HTTP プロキシが必要な場合は、プロキシ情報を入力します。

HTTP または FTP のインストールイメージを使用する場合は、「Yes (はい)」を選択して Ethernet インターフェイスを表示し、該当するネットワークインストールイメージにアクセスします。

---

**注** – FTP を選択した場合は、サーバーで匿名 FTP がサポートされている必要があります。匿名 FTP では、ISO インストールイメージを解凍したディレクトリにアクセスできることが条件になります。

---

- d. 「Next (次へ)」をクリックするか、CD-ROM からインストールする場合は「No (いいえ)」を選択します。

リモートアップデートプロセスで利用可能なアップデートの有無が確認され、リストが表示されます。アップデートされたコンポーネントは、必要に応じてダウンロードされます。「Next (次へ)」をクリックして先へ進みます。

## 10. インストール方法を選択します。

Linux ディストリビューションのインストール方法 (CD、HTTP、または FTP) を選択します。

- ネットワークがまだ有効ではない状態で HTTP または FTP を選択すると、ネットワークを有効にするプロンプトが表示されます (ステップ 9)。
- CD からインストールする場合はステップ 12 に進みます。

## 11. HTTP または FTP からインストールする場合

ネットワークイメージの URL を指定するプロンプトが表示されます。次に例を示します。

```
http://host.name/path/to/install/image
http://ip.address/path/to/install/image
nfs://host.name/path/to/install/image
nfs://ip.address/path/to/install/image
ftp://host.name/path/to/install/image
ftp://ip.address/path/to/install/image
```

## 12. CD からインストールする場合

SIA により、Linux OS カーネル用の RPM と、インストール時に検出されたオプションカードがインストールされます。その後 SIA CD が押し出され、サポートされる Linux ディストリビューションのリストが表示されます。このリストは、サーバーハードウェアに固有のものです。

Sun Blade サーバーモジュールで使用可能な Linux ディストリビューションを、次の Web サイトで確認します。

```
http://www.sun.com/servers/blades/x6200/downloads.jsp
```

## 13. サーバーの CD/DVD ドライブに、サポートされているディストリビューションのいずれかのディスク 1 を挿入します。

---

**注** – SP の CD-ROM リダイレクト機能を使用することもできます。

---

---

**注** – SIA をブートした CD-ROM にある OS メディアを使用する必要があります。

---

14. 「Next (次へ)」 をクリックします。

Linux ディストリビューションが識別されます。次に例を示します。

```
Identifying distribution... identified as Red Hat Enterprise  
Linux 4 Update 3 AS - 64bit.
```

(ディストリビューションの識別中... RedHat Enterprise Linux 4 Update  
3 AS - 64 ビットと識別されました)

---

**注** – サポートされていないメディアを挿入すると、エラーメッセージが表示されます。

---

サポートされているオプションカードがシステムに存在し、OS にそのカードに必要なドライバが含まれていない場合は、SIA によりそのカードに対応するドライバがインストールされます。

15. 「Next (次へ)」 をクリックすると、このディストリビューションのインストーラが起動します。

インストール中の Linux バージョンのインストールソフトウェアに切り替わります。

16. インストーラ画面の指示に従います。

サポートされているオプションカードがシステムに存在し、OS にそのカードに必要なドライバが含まれていない場合は、SIA によりそのカードに対応するドライバがインストールされます。

17. インストールが完了すると、SIA により、Linux OS カーネル用の RPM と、インストール時に検出されたオプションカードがインストールされます。

該当する Linux OS カーネルの RPM のみがインストールされます。

18. 適切なソフトウェアがインストールされたか確認します。

最後に、インストールされる追加ソフトウェアが識別されます。次に例を示します。

```
The Red Hat Enterprise Linux 4 Update 3 AS - 64bit installation has  
completed.
```

(RedHat Enterprise Linux 4 Update 3 AS - 64 ビットのインストールが完了しました)

```
Installing Sun Blade X6220 drivers... completed.
```

(Sun Blade X6220 ドライバをインストールしています...完了)

```
The installation has completed.
```

(インストールが完了しました)

19. 「Reboot (リブート)」 をクリックして、新しい OS がインストールされたサーバーをリブートします。



---

# PXE ブート用の SIA の設定

ここでは、Preboot Execution Environment (PXE) を設定して、サーバーに SIA をブートする方法について説明します。

---

**注** – このセクションでは、ユーザーはすでに PXE ブートサーバーの設定を理解していることを前提としています。次の情報は、既存の PXE ブートサーバーに SIA のブートターゲットを追加するためのものです。

---

## ▼ PXE ブート用に SIA を設定する

1. 「[RHEL の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定](#)」(24 ページ) の説明に従って、PXE をサポートするようにネットワークの事前設定を行います。
2. PXE Linux ディレクトリに、SIA イメージを保存するサブディレクトリを作成します。

```
# mkdir /home/pxeboot/suninstall
```
3. PXE サーバーの CD ドライブに SIA CD を挿入して CD をマウントします。
4. CD から `vmlinuz` および `initrd` ファイルを PXE Linux ディレクトリにコピーします。マウントされる CD イメージには正しいパスを使用してください。この例では、`/mnt/cdrom` を使用します。

```
# cp /mnt/cdrom/boot/isolinux/vmlinuz /home/pxeboot/suninstall
# cp /mnt/cdrom/boot/isolinux/initrd.img
/home/pxeboot/suninstall
```
5. SIA を PXE 設定ファイルに追加します。次の行を `/home/pxeboot/pxelinux.cfg/default` に入力します。

---

**注** – `append` から `netboot` までのテキストブロックは、改行なしの一続きの文字列として入力してください。

---

```
default suninstall
label suninstall
kernel suninstall/vmlinuz
append initrd=suninstall/initrd.img vga=0x314
ramdisk_size=400000 root=/dev/ram netboot
```

6. CD のマウントを解除して取り出します。

## ▼ PXE サーバーから SIA をブートする

1. Sun Blade X6220 サーバーを PXE サーバーと同じネットワークに接続し、サーバーの電源を入れます。
2. ネットワークブートの初期化中に、システムで F12 キーを押します。  
システムでは、DHCP サーバーから IP アドレスを取得します。
3. F8 キーを押して、PXE ブートイメージのダウンロードを開始します。
4. boot : プロンプトが表示されたら、`suninstall` と入力します。
5. SIA イメージがシステムにダウンロードされます。[「Sun Installation Assistant の使用」\(9 ページ\)](#)の手順に従って、インストールを続行できます。

# RedHat Enterprise Linux のインストール

---

## RedHat Enterprise Linux の インストールについて

RedHat Enterprise Linux (RHEL) ソフトウェアを Sun Blade X6220 サーバーモジュールにインストールする方法は、他の Intel や AMD Opteron サーバーとほとんど変わりません。RHEL をサーバーにインストールする最も一般的な方法は、次の 2 通りです。

- RHEL 配布メディアからのインストール
- Preboot Execution Environment (PXE) ネットワークサーバーに保存されている RHEL ソフトウェア (インストールツリー) の kickstart による自動インストール

# RedHat のインストールと管理ドキュメント

RHEL ソフトウェアを Sun Blade X6220 サーバーモジュールにインストールする前に、次の RHEL のマニュアルを参照してください。

表 3-1 RHEL の関連ドキュメント

ドキュメント名	説明	入手場所
README ファイル	ご使用の RHEL ソフトウェアバージョンのシステム要件およびシステム設定についての最新情報が含まれています。	RHEL CD1、および次のサイトから取得できます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/">http://www.redhat.com/docs/</a>
RedHat Enterprise Linux Quick Installation Guide (RedHat Enterprise Linux クイックインストールガイド)	RHEL のインストールに役立つ情報を含む簡易ガイドの印刷版です。	RHEL 配布メディアに含まれています。
RedHat Enterprise Linux インストールガイド	印刷版クイックインストールガイドの完全版です。	RedHat ドキュメント CD、および次のサイトから入手できます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/</a>
RedHat Enterprise Linux システム管理入門ガイド	RHEL システム管理者のための入門情報です。	次のサイトからダウンロードできます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/</a>
RedHat Enterprise Linux System Administration Guide (RedHat Enterprise Linux システム管理ガイド)	RHEL ソフトウェアをカスタマイズするための情報です。	次のサイトからダウンロードできます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/</a>
System Administration for Diskless Booting (ディスクレスブートのシステム管理)	サーバーと RedHat Linux をディスクレスでブートするための設定情報です。	<a href="http://www.jp.redhat.com/support/doc/">http://www.jp.redhat.com/support/doc/</a> から『RedHat Enterprise Linux x86,Itanium™, AMD64 アーキテクチャ用インストールガイド』としてダウンロードできます。
RedHat Enterprise Linux セキュリティガイド	RHEL ソフトウェアのセキュリティに関するガイドです。	次のサイトからダウンロードできます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/</a>

# RHEL インストールの作業マップ

表 3-2 で、インストール手順が本書のどのセクションで説明されているかを確認してください。

表 3-2 RHEL インストールの作業マップ

インストール作業	関連セクション
使用するシステムおよびネットワークに関する情報を収集します。	<a href="#">「RHEL をインストールする準備」</a> (17 ページ)
ローカルまたはネットワークに接続された CD または DVD ドライブを使用して、配布メディアから RHEL をインストールします。	<a href="#">「RHEL の配布メディアからのインストール」</a> (18 ページ)
RHEL オペレーティングシステムのファイルとドライバをアップデートします。	<a href="#">「RHEL オペレーティングシステムのアップデート」</a> (20 ページ)

## RHEL をインストールする準備

RHEL ソフトウェアは、ローカル CD/DVD、ネットワークのいずれからでもインストールできますが、どの方法でインストールする場合でも、事前にシステムとネットワークに関する情報を収集しておく必要があります。RHEL OS のインストールを開始する前に、この章を読み、使用するインストール方法の手順を確認してください。

## 追加ソフトウェアアップデートまたはパッチ

RHEL ソフトウェアのインストール後に、パッチとパッケージを使用して、システムソフトウェアを適宜アップデートする必要があります。詳細は、[「RHEL オペレーティングシステムのアップデート」](#) (20 ページ) を参照してください。

## アップデートされたメディアキットの入手

Sun Blade X6220 サーバーモジュールに RHEL のアップデートをインストールするには、RHEL 4 Update メディアキットを入手する必要があります。

このキットは、<http://rhn.redhat.com> からダウンロードします。

この Web サイトに企業アカウント情報を使ってログインし、アップデートされた .iso イメージをダウンロードします。企業アカウントとは、RHEL メディアキットを購入後に RedHat のサポートネットワークにアクセスするときに、顧客自身が作成するアカウントです。

[「RHEL SCSI ドライバのアップデート」\(34 ページ\)](#) を参照してください。

挿入した CD がインストール中に認識されない場合は、リリースノートを参照してください。

---

## RHEL の配布メディアからのインストール

RHEL には、オペレーティングシステムをインストールおよび設定するために、テキストモード、および使いやすいグラフィカルインタフェースが用意されています。boot プロンプトで、使用するインタフェースを選択できます。このセクションでは、両方のオプションについて説明します。

### 開始前のご注意

CD から RHEL ソフトウェアをインストールするには、次の手順に従います。

1. <http://rhn.redhat.com> からアップデートされたメディアキットをダウンロードします。

[「アップデートされたメディアキットの入手」\(18 ページ\)](#) を参照してください。

2. RHEL ソフトウェアをインストールします。
3. RHEL ソフトウェアをアップデートします。

[「RHEL オペレーティングシステムのアップデート」\(20 ページ\)](#) を参照してください。

## 必要なアイテム

配布メディアからインストールするには、次のアイテムが必要です。

- 次の 4 つのアイテムを搭載した Sun Blade X6220 サーバーモジュール
  - USB で接続したキーボードとマウス
  - USB で接続した CD/DVD ドライブ
  - モニター
  - Sun Blade X6220 サーバーモジュールの前面スロットに差し込むドングルコネクタ 『Sun Blade X6220 サーバーモジュール設置マニュアル』(820-2090) を参照してください。
- RHEL メディア CD セット

## ▼ ローカルメディアから RHEL をインストールする

1. ドングルの USB ポートに USB CD/DVD ドライブを接続します。
2. システムの電源を入れます。
3. Sun Blade X6220 サーバーモジュールに接続された DVD/CD ドライブに RHEL 配布 CD1 を挿入し、サーバーをリブートします。  
サーバーが CD から起動し、boot: プロンプトが表示されます。
4. boot プロンプトで、次のいずれかを選択します。
  - テキストモードの場合は、次のコマンドを入力します。  
boot: **linux text**
  - グラフィカルモードを使用する場合は、Enter キーを押します。
5. これ以降のインストール作業については、『RedHat Enterprise Linux インストールガイド』を参照してください。
6. 「[RHEL オペレーティングシステムのアップデート](#)」(20 ページ)に進みます。
7. SCSI ドライバをアップデートします。  
「[RHEL SCSI ドライバのアップデート](#)」(34 ページ)を参照してください。  
挿入した CD がインストール中に認識されない場合は、『Sun Blade X6220 サーバーモジュールご使用にあたって』(820-2105) (CR 6523141) を参照してください。

---

# RHEL オペレーティングシステムの アップデート

ここでは、RHEL オペレーティングシステムのアップデート方法を説明します。

## 開始前のご注意

ソフトウェアは常にアップデートされるため、オペレーティングシステムの最新バージョンが配布メディアに含まれていない場合があります。

次の 2 つの手順は、すでに Sun Blade X6220 サーバーモジュールに RHEL ソフトウェアがインストールされていることを想定しています。ここでは、最新のオペレーティングシステムで RHEL をアップデートする方法を説明します。

システムが一般アクセスが可能なネットワーク上にある場合は、システムをアップデートするとセキュリティが向上します。

## ▼ RHEL ソフトウェアをアップデートする

ここでは、システムからインターネットにアクセスできることを想定しています。

1. サーバーで `up2date` プログラムをセットアップします。

詳細は、RHEL メディアキットの付属マニュアルを参照してください。

2. `up2date` プログラムを実行します。

`available package updates` (利用できるパッケージアップデート) のセクションでカーネルパッケージを選択します。



---

# リモートコンソールアプリケーションによる RHEL OS のインストール

このセクションでは、Integrated Lights Out Manager (ILOM) リモートコンソールアプリケーションを使用して、サーバーに RHEL オペレーティングシステムをインストールする方法を説明します。

ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、RHEL 4 Update 3 (U3) 以降をインストールするには、次の手順に従います。

---

**注** – 次の手順を実行する前に、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』をお読みください。本書では、ILOM サービスプロセッサの WebGUI を使用してコンソールをリダイレクトする方法を説明します。

---

## ▼ ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用してインストールする

1. RHEL のインストール CD/DVD を用意するか、これに相当する ISO イメージを検索します。
2. ILOM サービスプロセッサの WebGUI に接続します。
3. 「Remote Control (リモートコントロール)」タブ、「Mouse Mode Settings (マウスモード設定)」タブの順にクリックします。
4. 必要に応じて、マウスモードを「Relative (相対)」モードに変更します。  
詳細は、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』の「リモートコンソールアプリケーション」の章を参照してください。
5. 「Redirection (リダイレクト)」タブをクリックします。
6. 「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」ボタンをクリックして、JavaRConsole アプリケーションを起動します。
7. JavaRConsole にログインします。
8. キーボードおよびマウスのリダイレクトを開始します。  
「Devices (デバイス)」メニューの「Keyboard and Mouse (キーボードとマウス)」を選択します。

## 9. CD/DVD のリダイレクトを開始します。

JavaRConsole の「Devices (デバイス)」メニューから CD をリダイレクトする方法には、次の 2 通りがあります。

- リモートコンソールの CD-ROM ドライブに実際に CD を挿入する場合は、ドライブに CD を挿入し、「CD-ROM」を選択します。
- リモートコンソールにインストールされている ISO イメージを使用する場合は、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択し、ISO ファイルの場所を指定します。

---

**注** – JavaRConsole からは、フロッピーディスクのリダイレクトも行うことができます。詳細は、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』を参照してください。

---

## 10. ILOM WebGUI からサーバーの電源を入れます。

### 11. BIOS を次のようにセットアップします。

- a. Ctrl-E キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
- b. 「Boot (ブート)」メニューを選択します。
- c. 「CD/DVD Drives (CD/DVD ドライブ)」を選択します。
- d. 「AMI Virtual CD (AMI 仮想 CD)」を第 1 ブートデバイスとして設定します。
- e. F10 キーを押して変更を保存し、終了します。
- f. リブートします。
- g. Ctrl-P キーを押して、ブートデバイスとして CD/DVD を選択します。

### 12. boot プロンプトが表示されたら、**linux text** と入力します。

### 13. インストール前に CD メディアをテストするプロンプトが表示されたら、メディアのテストを実行しない場合は「Skip (スキップ)」を選択します。

### 14. これ以降のインストール作業については、『RedHat Enterprise Linux インストールガイド』を参照してください。

---

# RedHat Enterprise Linux および PXE

Sun Blade X6220 サーバーモジュールのネットワークインタフェースカード (NIC) は、ネットワークブートプロトコルである Preboot Execution Environment (PXE) に対応しています。システム BIOS やネットワークインタフェース BIOS は、ネットワークに DHCP サーバーがあるかどうか自動的に問い合わせます。ネットワークで該当する DHCP サーバーがすでに設定され、PXE プロトコルおよび PXE イメージサーバーを使用できる場合は、システム BIOS によって、ブート可能な RedHat Enterprise Linux (RHEL) イメージがサーバーにインストールされます。

---

**注** – PXE は、多数の Sun Blade X6220 サーバーモジュールが同じ設定になるようにセットアップできる強力で便利なソリューションです。

---

## 作業マップ

ネットワークに PXE がセットアップされていない場合に PXE を利用してネットワークに RHEL をインストールするには、次の作業を行う必要があります。

---

タスク	関連セクション
<a href="http://rhn.redhat.com">http://rhn.redhat.com</a> からアップデートされたメディアキットをダウンロードします。	<a href="#">「アップデートされたメディアキットの入手」</a> (18 ページ)。
Linux ネットワークと PXE サーバーをセットアップします。	<a href="#">「RHEL の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」</a> (24 ページ)。
PXE サーバーに RHEL イメージをインストールします。	<a href="#">「PXE サーバーでの PXE インストールイメージの作成」</a> (30 ページ)。
サーバーを設定して PXE サーバーの RHEL イメージからインストールします。	<a href="#">「RHEL の PXE サーバーからのインストール」</a> (33 ページ)。

---

## RHEL の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定

このセクションでは、RHEL ソフトウェアを PXE を使ってインストールする場合に、ネットワークを事前設定する方法を説明します。ここでは、ブート可能なサーバーで RHEL オペレーティングシステムの 1 つのバージョンが PXE サーバーとして動作していることを想定しています。

PXE インストールのためにネットワークを事前設定するには、次の手順を実行する必要があります。

- ツールとドライバの CD (707-0095) からファイルをコピーします。
- DHCP サーバーを設定します。
- portmap をインストールします。
- TFTP サービスを設定します。
- neopxe ブートサーバーデーモンをインストールおよび設定します。
- NFS サービスを設定します。
- ファイアウォールを無効にします。

### 必要なアイテム

PXE インストールのためにネットワークを事前設定するには、次のアイテムが必要です。

- 次のデバイスを搭載した RHEL サーバー
  - 前面パネルにある dongle ポートを通じてサーバーモジュールに USB 接続された CD/DVD ドライブ
  - USB で接続したキーボード
  - モニター
- RHEL メディアセット
- ツールとドライバの CD (707-0095)

### ツールとドライバの CD イメージのダウンロード

ツールとドライバの CD にアクセスできない場合は、次の URL から ISO イメージをダウンロードできます。

<http://www.sun.com/servers/blades/x6200/downloads.jsp>

ダウンロードサイトからダウンロードしたイメージから独自の CD を作成する場合は、ここで説明するツールとドライバの CD の代わりに、その CD を使用します。

## ▼ ツールとドライバの CD からファイルをコピーする

このセクションでは、PXE の設定に必要な PXE サポートファイルを、ツールとドライバの CD からコピーする方法を説明します。次の手順では RHEL 4 U4 を使用しています。使用するアップデートに応じて、`rhel4u4` の部分を適切なファイル名に置き換えてください。

1. DHCP/PXE サーバーにツールとドライバの CD を挿入します。
2. PXE サポートファイル用の一時 (`/tmp`) ディレクトリを作成するか、既存の `/tmp` ディレクトリを使用します。`/tmp` ディレクトリが存在しない場合は、次のコマンドを入力します。

```
# mkdir /tmp
```

3. 次のコマンドを入力して、ファイルを `/tmp/` ディレクトリにコピーします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

```
# cp /mnt/cdrom/Linux/pxe/rhel4u4-pxefiles.tar.gz /tmp/
```

4. tar ファイルの内容を `/tmp/` ディレクトリに解凍します。次のように入力します。

```
# cd /tmp
```

```
# tar -zxvf rhel4u4-pxefiles.tar.gz
```

必要なファイルをすべて含むディレクトリ `/tmp/rhel4u4-pxefiles/` が作成されます。

## ▼ DHCP サーバーを設定する

DHCP サーバーとして使用するサーバー上で、次の手順を実行します。

1. サーバーに電源を入れ、スーパーユーザーとしてログインします。
2. DHCP サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。次のコマンドを入力します。

```
# rpm -qa | grep dhcp-
```

3. DHCP サーバーパッケージが一覧表示されない場合は、RHEL CD 5 を挿入して DHCP サーバーをインストールします。次のコマンドを入力します。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

```
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/dhcp-*.rpm
```

4. 次のコマンドを入力します。

```
# umount /mnt/cdrom
```

5. CD/DVD ドライブから CD を取り出します。
6. PXEClient 要求だけが PXEClient 応答を受信するように、DHCP 設定ファイル (/etc/dhcpd.conf など) を設定します。

次のエントリを DHCP 設定ファイルに追加します。詳細は、dhcpd.conf のマニュアルページを参照してください。

```
class "PXE" {match if substring (option
vendor-class-identifier, 0, 9) ="PXEClient"; option
vendor-class-identifier "PXEClient"; vendor-option-space PXE;}
```

---

注 - サーバーの /etc ディレクトリに dhcpd.conf ファイルがない場合は、/tmp/rhel4u4-pxefiles ディレクトリのサンプル DHCP 設定ファイルから dhcpd.conf ファイルをコピーできます。

---

7. DHCP サービスを起動します。次のように入力します。  

```
# service dhcpd start
```
8. 常に DHCP を起動するようサーバーを設定します。次のように入力します。  

```
# chkconfig dhcpd on
```

## ▼ DHCP サーバーに portmap をインストールする

1. portmap サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。次のように入力します。  

```
# rpm -qa | grep portmap
```
2. portmap が一覧表示されない場合は、RHEL CD 2 を挿入し、次のコマンドを入力して portmap サービスをインストールします。  

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/portmap-*
```
3. 次のコマンドを入力したあと、サーバーから CD を取り出します。  

```
# umount /mnt/cdrom
```

## ▼ DHCP サーバー上の TFTP サービスを設定する

1. TFTP サーバーパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。次のように入力します。  

```
# rpm -qa | grep tftp-server
```

2. TFTP サーバーパッケージが一覧表示されない場合は、RHEL CD 4 を挿入し、次のコマンドを入力して TFTP サービスをインストールします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/tftp-server*
```

3. 次のコマンドを入力したあと、サーバーから CD を取り出します。

```
# umount /mnt/cdrom
```

4. /etc/xinetd.d/tftp ファイルを編集して、保存します。

次のように変更を加えます。

- -s /tftpliboot エントリを -v -s /home/pxeboot に変更します。
- disable 属性を no に変更します。

5. inetd サーバーを再起動します。次のように入力します。

```
# service xinetd restart
```

## ▼ neopxe ブートサーバーデーモンをインストール および設定する

DHCP サーバー上で、次の手順を実行します。neopxe サーバーは同じシステム上で動作している DHCP サーバーと併用するよう設計されています。

1. DHCP サーバーとして使用しているシステムに neopxe ブートサーバーデーモンをインストールします。次のように入力します。

```
# cd /tmp/rhel4u4-pxefiles/neopxe-0.2.0
# ./configure
# make
# make install
```

2. 次のコマンドを入力して、パス /usr/local/sbin/neopxe を rc.local ファイルに追加します。> 記号は必ず 2 個使ってください。

```
# echo "/usr/local/sbin/neopxe" >> /etc/rc.d/rc.local
```

3. PXE Linux のイメージを /tmp/ ディレクトリからコピーします。次のように入力します。

```
# mkdir /home/pxeboot
# cp /tmp/rhel4u4-pxefiles/pxelinux.0 /home/pxeboot
```

4. PXE Linux のイメージを設定します。次のように入力します。

```
# mkdir /home/pxeboot/pxelinux.cfg/
# touch /home/pxeboot/pxelinux.cfg/default
```

5. 起動時に **neopxe** が読み取る `/usr/local/etc/neopxe.conf` 設定ファイルを修正します。

- `neopxe.conf` ファイルが `/usr/local/etc` ディレクトリにない場合は、`/tmp/rhel4u4-pxefiles/neopxe-0.2.0/` ディレクトリからコピーします。
- 有効な設定ファイルでは、次の各行にエントリが必ず指定されています。service 行が少なくとも 1 行必要です。

```
ip_addr=n.n.n.n
prompt=boot-prompt-string
prompt_timeout=timeout
service=service-number,boot-server,boot-file,label
```

各エントリの内容は次のとおりです。

- `n.n.n.n` は PXE サーバーの IP アドレスです。
- `boot-prompt-string` は、ネットワークブート中に表示される文字列で、F8 キーを押して「Boot (ブート)」メニューを表示するプロンプトです。
- `timeout` は、プロンプトが時間切れになって、サーバーがデフォルトで最初のサービスをブートするまでの時間を秒数で示します。
- `service-number` はブートサービスを識別する番号で、1 ~ 254 の整数で示されます。
- `boot-server` は、サービスをブートするサーバーの IP アドレスです。
- `boot-file` は、`/home/pxeboot` ディレクトリから読み込まれるブートファイルの名前です。
- `label` は、F8 キーを押して「Boot (ブート)」メニューを起動したときに表示される文字列です。

次に例を示します。

```
ip_addr=192.168.0.1
prompt=Press [F8] for menu.
prompt_timeout=10
service=1,192.168.0.1,pxelinux.0,Linux
service=2,192.169.0.1,nbp.unknown,Solaris
```

---

**注** - 詳細は、`neopxe.conf` のマニュアルページを参照してください。

---

6. **neopxe** デーモンを起動します。次のように入力します。

```
# /usr/local/sbin/neopxe
```



## ▼ DHCP サーバー上の NFS サービスを設定する

1. NFS サービスパッケージがすでにサーバーにインストールされているかどうか確認します。次のように入力します。  

```
# rpm -qa | grep nfs-utils
```
2. NFS サービスパッケージが一覧表示されない場合は、RHEL CD 2 を挿入し、次のコマンドを入力して NFS サービスをインストールします。  

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom  
# rpm -Uvh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/nfs-utils-*
```
3. 次のコマンドを入力したあと、サーバーから CD を取り出します。  

```
# umount /mnt/cdrom
```
4. `/etc/exports` ファイルに次の行を追加して保存します。  

```
/home/pxeboot * (no_root_squash,no_subtree_check,insecure)
```
5. NFS サービスを起動します。次のように入力します。  

```
# service nfs start
```
6. 常に NFS サービスを起動するようサーバーを設定します。次のように入力します。  

```
# chkconfig nfs on  
# chkconfig nfslock on
```

---

注 – DNS サーバーを使用している場合は、`dhcpd.conf` ファイルにある PXE のサブネットを表す `dynamic-bootp` エントリで定義されているアドレスの範囲に対して、DNS エントリが存在することを確認してください。DNS サーバーを使用しない場合は、`/etc/hosts` ファイルを修正して、`dhcpd.conf` ファイルにある PXE のサブネットを表す `dynamic-bootp` エントリに含まれるホストアドレスの範囲を追加します。

---

## ▼ ファイアウォールを無効にする

PXE サーバーとして使用する予定のシステムに RHEL ソフトウェアをインストールしたときにファイアウォールのセキュリティを有効にした場合は、PXE クライアントがサーバーからソフトウェアをダウンロードできるように、次の手順に従ってファイアウォールを無効にします。

1. `ipchains` サービスを停止します。次のコマンドを入力します。  

```
# service ipchains stop
```
2. `iptables` サービスを停止します。次のコマンドを入力します。  

```
# service iptables stop
```

3. サーバーの再起動時に ipchains サービスが起動しないようにします。次のコマンドを入力します。

```
# chkconfig ipchains off
```

4. サーバーの再起動時に iptables サービスが起動しないようにします。次のコマンドを入力します。

```
# chkconfig iptables off
```

---

**注** – ipchains サービスがサーバーにインストールされていない場合は、エラーメッセージが表示されることがありますが、このメッセージは無視してかまいません。

---



---

**注意** – PXE サーバーとして使用しているシステムでファイアウォール保護を無効にすると、そのサーバー上にあるデータのセキュリティは保証できなくなります。このサーバーがローカルのイントラネット外にネットワーク接続されている場合は、ソフトウェアを PXE クライアントにダウンロードしたあとで、ファイアウォールを再び有効にしてください。

---

## RHEL のネットワークからのインストール

ここまでの設定作業を終了したら、次の作業を実行します。

1. PXE/DHCP サーバーをリブートします。
2. 「[PXE サーバーでの PXE インストールイメージの作成](#)」のセクションを参照してください。

## PXE サーバーでの PXE インストールイメージの作成

ここでは、Preboot Execution Environment (PXE) インストールイメージを、DHCP サーバーとして使用しているサーバーに作成する方法を説明します。これにより、同じサーバーが PXE サーバーとしても機能します。PXE サーバーは、PXE クライアントにオペレーティングシステムファイルを提供します。

### 開始前のご注意

RHEL イメージを PXE サーバーにインストールする前に、PXE イメージをサポートする Linux ネットワークを設定してください。「[RHEL の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定](#)」(24 ページ)を参照してください。

## 必要なアイテム

PXE を使ってインストールするには、次のアイテムが必要です。

- DHCP サーバーにある CD/DVD ドライブ
- RHEL 4 U4 (またはそれ以降の) メディア CD セット ([「アップデートされたメディアキットの入手」\(18 ページ\)](#) を参照)
- ツールとドライバの CD (707-0095)

## ▼ RHEL イメージをPXE サーバーに作成する

1. DHCP/PXE サーバーの CD/DVD ドライブにツールとドライバの CD を挿入します。
2. 次のコマンドを入力して、Sun のサポートファイルを CD から DHCP/PXE サーバーの `/tmp` ディレクトリにコピーします。

---

**注** - 圧縮 `.tar` ファイルは、RHEL のバージョンによって異なります。この例では、RHEL 4 U4 64 ビット版を使用しています。圧縮 `.tar` ファイルのファイル名は `rhel4u4-pxefiles.tar.gz` です。

---

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp -a /mnt/cdrom/Linux/pxe/rhel4u4-pxefiles.tar.gz /tmp
# cd /tmp
# tar -zxvf rhel4u4-pxefiles.tar.gz
# umount /mnt/cdrom
```

3. RHEL ソフトウェアを格納するディレクトリ構造を設定します。次のように入力します。

```
# mkdir -p /home/pxeboot/rhel4u4/
```

---

**注** - 格納先として `/home/pxeboot/rhel4u4/` 以外のディレクトリを使用することもできますが、この手順では、このディレクトリを例として使用します。

---

4. 各 RHEL 配布 CD で次のコマンドを入力し、配布 CD の内容を該当する PXE のターゲットサブディレクトリにコピーします。

```
# mount dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp -a /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/rhel4u4/
# umount /mnt/cdrom
```

---

**注** - 既存ファイルを上書きするかどうかを確認するプロンプトが表示されたら、「y」と入力して上書きします。RHEL CD の取り出しおよび挿入は、CD/DVD ドライブのマウントが解除されている状態で行ってください。

---

5. kickstart ファイル `ks.cfg` を PXE サーバーにコピーします。次のように入力します。

```
# cp /tmp/rhel4u4-pxefile/ks.cfg /home/pxeboot/rhel4u4/
```

kickstart 設定ファイルには、動作環境に適さない設定が含まれている場合があります。環境に合うように、必要に応じてファイルを修正してください。

6. ステップ 2 で解凍した PXE ファイルから元の ramdisk を PXE イメージの一番下にコピーします。次のように入力します。

```
# cp /tmp/rhel4u4-pxefiles/initrd.img /home/pxeboot/rhel4u4/
```

7. PXE サーバーで、kickstart ファイル `/home/pxeboot/rhel4u4/ks.cfg` を編集し、保存します。

nfs 行を次のように編集します。

```
nfs --server n.n.n.n --dir /home/pxeboot/rhel4u4/
```

`n.n.n.n` は PXE サーバーの IP アドレスです。--dir の後ろに指定されている保存場所が、イメージのトップレベルを指していることを確認します。

8. `pxelinux.cfg` イメージを保存するデフォルトディレクトリを作成します。

```
# mkdir /home/pxeboot/pxelinux.cfg/default
```

9. ファイル `/home/pxeboot/pxelinux.cfg/default` に次のエントリを追加します。

---

**注** - `append` から `ks.cfg` までのテキストブロックは、改行なしの連続する文字列として入力してください。

---

```
default rhel4u4
```

```
label rhel4u4
```

```
kernel rhel4u4/vmlinuz
```

```
append ksdevice=eth0 console=tty0 load_ramdisk=1
```

```
initrd=rhel4u4/initrd.img network
```

```
ks=nfs:n.n.n.n:/home/pxeboot/rhel4u4/ks.cfg
```

`n.n.n.n` は PXE サーバーの IP アドレスです。

---

**注** - コンソールを使ってインストールしている場合は、`append` 行に `console=ttyS0,9600` を追加してください。

---

10. 修正した `/home/pxeboot/pxelinux.cfg/default` ファイルを保存します。

11. DHCP/PXE サーバーの CD/DVD ドライブに RHEL 配布 CD1 を挿入します。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp /mnt/cdrom/images/pxeboot/vmlinuz /home/pxeboot/rhel4u4/
```

## RHEL の PXE サーバーからのインストール

ここでは、PXE/DHCP サーバーからブートイメージファイルをダウンロードする要求を発行するように Sun Blade X6220 サーバーモジュールを設定する方法と、Sun Blade X6220 サーバーモジュールに RHEL のブートイメージをインストールする方法を説明します。

### 開始前のご注意

PXE サーバーから RHEL をインストールするようにサーバーを設定する前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- PXE サーバーをサポートするよう Linux ネットワークを設定します。[「RHEL の PXE インストールをサポートするためのネットワークの事前設定」\(24 ページ\)](#) を参照してください。
- Linux PXE サーバーに RHEL イメージをインストールします。[「PXE サーバーでの PXE インストールイメージの作成」\(30 ページ\)](#) を参照してください。

## ▼ PXE サーバーから RHEL をインストールする

1. PXE クライアントを PXE サーバーと同じネットワークに接続し、PXE クライアントの電源を入れます。

PXE クライアントとは、RHEL ソフトウェアのインストール先の Sun Blade X6220 サーバーモジュールのことです。

2. PXE クライアントでネットワークブートするプロンプトが表示されたら、F12 キーを押します。

PXE クライアントが PXE サーバーに接続し、DHCP サーバーから IP アドレスを取得します。

3. プロンプトが表示されたら、F8 キーを押して、PXE ブートイメージのダウンロードを開始します。

4. boot : プロンプトで、PXE サーバーに RHEL イメージをインストールした際イメージに付けたラベルを入力します。

RHEL インストールイメージが、インストール先の Sun Blade X6220 サーバーモジュールにダウンロードされます。

5. RHEL メディアキットに付属のマニュアルを参照し、使用しているサーバーに合わせて Linux オペレーティングシステムを設定してください。
6. SCSI ドライバをアップデートします。  
「RHEL SCSI ドライバのアップデート」(34 ページ) を参照してください。
7. オペレーティングシステムファイルを更新します。  
「RHEL オペレーティングシステムのアップデート」(20 ページ) を参照してください。

## RHEL SCSI ドライバのアップデート

前のセクションの説明に従って、Sun Blade X6220 用のツールとドライバの CD を挿入し、ディレクトリ `/mnt` にマウントします。

```
#cd /mnt/Linux/drivers
```

```
#rpm -ivh mptlinux-3.02.83.20-1.rhel4.x86_64.rpm
```

新しいドライバのインストールはこれで完了です。変更を有効にするにはブレードをリブートする必要があります。

```
#reboot
```

# SUSE Linux Enterprise Server 10 のインストール

---

## SUSE Linux Enterprise Server 10 のインストールについて

SUSE Linux Enterprise Server 10 (SLES 10) をサーバーにインストールする最も一般的な方法は次のとおりです。

- SLES 10 配布 CD (ローカルまたはリモート) からインストールします。
- ローカルネットワーク上の PXE サーバーに格納された Preboot Execution Environment (PXE) イメージ、またはネットワーク上に格納されたその他イメージからインストールします。

---

**注** – Sun Installation Assistant (SIA) は、サーバーに SUSE Linux をインストールする際に役立つ、便利なフロントエンドアプリケーションです。SLES 10 に付属している標準インストールユーティリティと手順を補足するもので、それに代わるものではありません。詳細は、[第 2 章](#)を参照してください。

---

## SUSE Linux のインストールと設定ドキュメント

SUSE Linux をサーバーにインストールするときに役立つ情報を、次のドキュメントから入手できます。

- README ファイル。SLES 10 の CD1 に収録されている README ファイルには、システム要件とシステム設定に関する最新情報が記載されています。
- SLES 10 リリースノート。インストール CD 1 の docu ディレクトリにあります。

- *SUSE Linux Enterprise Server 10 Start-Up Guide (SUSE Linux Enterprise Server 10 スタートアップガイド)*。インストール手順を簡単に説明しています。ファイル名は `startup.pdf` で、インストール CD 1 の `docu` ディレクトリの該当する言語ディレクトリにあります。
- *SUSE LINUX Enterprise Server 10 Installation and Administration (SUSE LINUX Enterprise 10 インストールおよび管理ガイド)*。SLES 10 の計画、配備、構成、管理について詳しく説明しています。ファイル名は `sles-admin.pdf` で、インストール CD 1 の `docu` ディレクトリの該当する言語ディレクトリにあります。
- SLES 10 サポートサイト。SUSE の製品およびサポートに関する Web サイトでは、Enterprise Server オペレーティングシステムに関する数多くの技術情報を参照できます。その他のサポート情報については、SLES 10 のホームページ (<http://www.novell.com/products/server/>) を参照してください。

## SLES 10 インストールの作業マップ

次の表で、インストール手順が本書のどのセクションで説明されているかを確認してください。

インストール作業 (目的)	関連セクションまたはドキュメント
SIA を実行します。	「 <a href="#">Sun Installation Assistant の使用</a> 」 (9 ページ)
ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブから SLES 10 をインストールします。	「 <a href="#">配布メディアからの SLES 10 のインストール</a> 」 (38 ページ)
ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブまたは PXE サーバーから SLES 10 をインストールします。	SUSE Linux Enterprise Server 10 Installation Manual (SUSE Linux Enterprise Server 10 インストールマニュアル)
ネットワークに接続されたシステムに格納されているイメージから SLES 10 をインストールします。	「 <a href="#">PXE サーバーでの SLES 10 PXE インストールイメージの作成</a> 」 (40 ページ)
PXE サーバーから SLES 10 をインストールします。	「 <a href="#">PXE サーバーからの SLES 10 のインストール</a> 」 (42 ページ)
SLES 10 ソフトウェアをアップデートします。	「 <a href="#">SLES 10 オペレーティングシステムのアップデート</a> 」 (37 ページ)



---

# SLES 10 オペレーティングシステムのアップデート

SUSE Linux Enterprise Server 10 (SLES 10) のインストールメディアに収録されているソフトウェアは、最新バージョンでない可能性があります。このメディアのリリース後に、SLES 10 ソフトウェアのアップデートが数多く公開されているので、それらをインストールする必要があります。ここでは、PXE サーバーまたは配布 CD からサーバーに SUSE オペレーティングシステムソフトウェアをインストールしたあとにアップデートする方法を説明します。

## ▼ SLES 10 オペレーティングシステムをアップデートする

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、YaST オンラインアップデートを実行します。

```
# you
```

YaST はテキストモードおよびグラフィカルモードで実行できます。ここで説明する手順は、そのどちらにも当てはまります。

3. ファイアウォールを通してインターネットにアクセスするためにプロキシサーバーを使う必要がある場合はまず、YaST に正しいプロキシ情報を設定する必要があります。
  - a. 左側の「Network Services (ネットワークサービス)」タブを選択し、次に右側の「Proxy (プロキシ)」画面を選択します。HTTP フィールドと HTTPS フィールドの両方に正しいプロキシ URL を入力します。

---

**注** – ネットワーク HTTP プロキシを介してオンラインアップデートを正しく機能させるために、次の追加設定を行う必要があります。

---

- b. YaST ユーティリティを終了し、次のコマンドを実行します。

```
rug set-prefs proxy-url <プロキシURL>
```

<プロキシURL> には、ご使用のプロキシサーバーの完全修飾 URL を指定します (例: `http://proxy.yourdomain:3128/`)。

- c. コマンドが実行されたら YaST を再起動します。

4. Novell カスタマセンターに登録します。左の「Software (ソフトウェア)」タブを選択し、次に「Novell Customer Center Configuration (Novell カスタマセンター登録)」を選択して指示に従います。

後で、Novell カスタマセンターのユーザー名とパスワード、および SLES 10 のアクティベーションコードが必要になります。

5. 登録したら、「Online Update (オンラインアップデート)」タブを選択して、ソフトウェアアップデートを実行します。

---

## 配布メディアからの SLES 10 のインストール

SUSE Linux Enterprise Server 10 (SLES 10) には、オペレーティングシステムをインストールおよび設定するための使いやすいグラフィカルインタフェースが用意されています。配布 CD/DVD を使用して SUSE Linux をインストールする手順は、ローカル CD/DVD ドライブを使用しても、KVMs を介して接続されたりリモート CD/DVD ドライブを使用しても、基本的には同じです。

### 開始前のご注意

#### 必要なアイテム

- 外部 DVD-ROM デバイスを搭載した Sun Blade X6220 サーバーモジュール
  - USB で接続したキーボードとマウス
  - モニター
- SLES 10 メディアベース CD セットまたは DVD セット

### ▼ 配布メディアから SLES 10 をインストールする

1. システムの電源を入れます。F8 キーを押して、プロンプトが表示されたら「CDROM」を選択します。
2. SLES 10 CD 1 (または DVD) をローカル CD/DVD ドライブに挿入します。
3. SLES 10 インストールマニュアルの手順に従って、インストールを完了します。仮想 CD ドライブから CD イメージをインストールすることもできます。『Sun Blade X6220 サーバーモジュールご使用にあたって』(820-2105) を参照してください。

---

# リモートコンソールアプリケーションによる SLES 10 OS のインストール

このセクションでは、ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、SLES 10 OS を Sun Blade X6220 サーバーモジュールにインストールする方法を説明します。

## ▼ リモートコンソールから SLES 10 をインストールする

1. SLES 10 インストール CD/DVD を用意するか、これと同じ iso イメージを検索します。
2. ILOM サービスプロセッサの WebGUI に接続します。
3. 「Remote Control (リモートコントロール)」タブ、「Mouse Mode Settings (マウスモード設定)」タブの順にクリックします。
4. 必要に応じて、マウスモードを「Relative (相対)」モードに変更します。  
詳細は、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』のリモートコンソールアプリケーションに関する章を参照してください。
5. 「Redirection (リダイレクト)」タブをクリックします。
6. 「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」ボタンをクリックして、JavaRConsole アプリケーションを起動します。
7. JavaRConsole にログインします。
8. キーボードおよびマウスのリダイレクトを開始します。  
「Devices (デバイス)」メニューの「Keyboard and Mouse (キーボードとマウス)」を選択します。
9. CD/DVD のリダイレクトを開始します。  
JavaRConsole の「Devices (デバイス)」メニューから CD をリダイレクトする方法には、次の 2 通りがあります。
  - リモートコンソールの CD-ROM ドライブに実際に CD を挿入する場合は、ドライブに CD を挿入し、「CD-ROM」を選択します。
  - リモートコンソールにインストールされている ISO イメージを使用する場合は、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択し、ISO ファイルの場所を指定します。

---

**注** – JavaRConsole から、フロッピーディスクのリダイレクトを行うこともできます。詳細は、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) 管理ガイド』を参照してください。

---

10. ILOM WebGUI からサーバーの電源を入れます。
11. 次のように BIOS セットアップを行います。
  - a. Ctrl-E キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
  - b. 「Boot (ブート)」メニューを選択します。
  - c. 「CD/DVD Drives (CD/DVD ドライブ)」を選択します。
  - d. 「AMI Virtual CD (AMI 仮想 CD)」を第 1 ブートデバイスに設定します。
  - e. F10 キーを押して変更を保存し、終了します。
  - f. リブートし、Ctrl-P キーを押して、ブートデバイスとして CD/DVD を選択します。
12. SLES 10 のインストールメニューが表示されたら、矢印キーを使って「Installation (インストール)」を選択し、Enter キーを押します。
13. 通常の方法で SLES 10 をインストールします。

---

## PXE サーバーでの SLES 10 PXE インストールイメージの作成

SLES 10 PXE ファイルをインストールするために転送するには、次の作業を行います。

- PXE サーバーで SLES 10 イメージを作成します。
- SLES 10 ソフトウェアをセットアップしてディレクトリにコピーします。
- PXE ファイルをセットアップします。

これで PXE サーバーから SLES 10 をインストールする準備ができました。

## ▼ PXE サーバーで SLES 10 イメージを作成する

1. DVD-ROM ドライブにツールとドライバの CD を挿入します。
2. 次のコマンドを入力して、PXE サポートファイルをツールとドライバの CD から /tmp ディレクトリにコピーします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp -a /mnt/cdrom/Linux/pxe/sles10-pxefiles.tar.gz /tmp
# cd /tmp
# tar xfz sles10-pxefiles.tar.gz
# umount /mnt/cdrom
```

### SLES 10 ソフトウェアをセットアップしてディレクトリにコピーする

ここでは、PXE インストールのための SLES 10 ファイルを格納するディレクトリセットアップを作成する方法を説明します。

---

**注** – この例では /home/pxeboot/sles10/ を使用していますが、それ以外のディレクトリを使用することもできます。

---

1. SLES 10 ソフトウェアを格納するディレクトリ構造を設定します。次のように入力します。

```
# mkdir -p /home/pxeboot/sles10/CD{1,2,3,4}
```

2. SLES 10 CD 1 をサーバーに挿入し、内容を PXE サーバーにコピーします。次のように入力します。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cp -r /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/sles10/CD1/
# umount /mnt/cdrom
```

3. サーバーから SLES 10 CD 1 を取り出します。

4. 上の手順を繰り返し、次に示す /home/pxeboot/sles10/ の該当ディレクトリに CD 2 ~ CD 4 の内容をそれぞれコピーします。

```
# cp -r /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/sles10/CD2/
# cp -r /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/sles10/CD3/
# cp -r /mnt/cdrom/* /home/pxeboot/sles10/CD4/
```

## PXE ファイルをセットアップする

1. autoinst.xml ファイルを、/tmp/sles10/ ディレクトリから PXE イメージのルートにコピーします。次のように入力します。

```
# cp /tmp/sles10-pxefiles/autoinst.xml /home/pxeboot/sles10/
```

2. PXE サーバーで、home/pxeboot/pxelinux.cfg/default ファイルを編集して次のエントリを追加します。

---

**注** - 「append」から「autoinst.xml」までのテキストブロックは、改行なしの一続きの文字列として入力してください。

---

```
default sles10
label sles10
kernel sles10/CD1/boot/x86_64/loader/linux
append textmode=1 initrd=sles10/CD1/boot/x86_64/loader/initrd
install=nfs://n.n.n.n/home/pxeboot/sles10/CD1
autoyast=nfs://n.n.n.n/home/pxeboot/sles10/autoinst.xml
```

n.n.n.n は PXE サーバーの IP アドレスです。--dir の後ろに指定されている保存場所が、イメージのトップレベルを指していることを確認します。

## PXE サーバーからの SLES 10 のインストール

ここでは、SLES 10 ブートイメージを Sun Blade X6220 サーバーモジュールにインストールする最終ステップを説明します。

### 開始前のご注意

PXE サーバーから SLES 10 をインストールするようにサーバーを設定する前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- PXE サーバーに対応するように Linux ネットワークを設定します。
- Linux PXE サーバーに SLES 10 イメージをインストールします。[「PXE サーバーでの SLES 10 PXE インストールイメージの作成」\(40 ページ\)](#) を参照してください。

## ▼ PXE サーバーから SLES 10 をインストールする

1. PXE クライアントを PXE サーバーと同じネットワークに接続します。
2. PXE クライアントの電源を入れ、F12 キーを押してネットワークブートを選択します。  
boot : プロンプトが表示されます。
3. boot : プロンプトで、PXE サーバーに SLES 10 イメージをインストールした際イメージに付けたラベル (上の例では `sles10`) を入力します。
4. SLES 10 Linux サーバーの設定方法は、SLES 10 CD 1 に収録されたインストールおよび管理ガイドを参照してください。
5. オンラインアップデートを実行して、オペレーティングシステムのファイルを更新します。





## パート II

---

このパートでは、次の項目について説明します。

- [Solaris 10 のインストール](#)

Windows システムをインストールする場合は、『Sun Blade X6220 サーバーモジュールの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』(820-2100) を参照してください。



## Solaris 10 のインストール

---

**注** – この章は、x86/x64 プラットフォーム上の Solaris OS の操作に慣れた上級システム管理者を対象としています。

---

## Solaris OS のインストールについて

---

**注** – この章では、ネットワークまたはメディアから Solaris 10 オペレーティングシステムをインストールする方法を説明します。サーバーに Solaris 10 OS がプリインストールされている場合は、『Sun Fire X4100 サーバーおよび Sun Fire X4200 サーバーの設置マニュアル』(820-0734) を参照してください。

---

この章では、Solaris™ オペレーティングシステム (Solaris OS) を Sun Blade X6220 サーバーモジュールにインストールする際に知っておく必要がある予備知識を説明し、その詳細が掲載されている Solaris OS のドキュメントを参照します。

### 概要

Solaris のこのリリースは、プロセッサアーキテクチャとして SPARC®、および x86 の各製品ファミリ (UltraSPARC®, SPARC64, IA-32, AMD64) を使用するシステムをサポートしています。

サポートされている SPARC 系プロセッサ搭載システムは、『Solaris 10 Sun ハードウェアマニュアル』(<http://docs.sun.com>) に記載されています。サポートされている x86 搭載システムは、「Solaris Hardware Compatibility List (Solaris ハードウェア互換リスト)」(<http://www.sun.com/bigadmin/hcl>) に記載されています。ここでは、各種プラットフォーム間の実装の違いが示されています。

---

**注** – 本書では、「x86」は、Intel の 32 ビットのマイクロプロセッサファミリ、および AMD が製造する 64 ビットおよび 32 ビットの互換マイクロプロセッサを指します。サポートされているシステムについては、「Solaris Hardware Compatibility List (Solaris ハードウェア互換リスト)」を参照してください。

---

- オペレーティングシステムの推奨最低バージョンは、Solaris 10、バージョン 11/06 (Solaris 10 11/06) です。
- Solaris 10 11/06 は、次の Web サイトからダウンロードするか、メディアを注文できます。  
<http://www.sun.com/servers/blades/x6220/downloads.jsp>
- その他のソフトウェアは、付属のツールとドライバの CD に収録されています。Solaris OS を注文する必要がある場合や、ツールとドライバの CD がない場合は、Sun のサービスプロバイダにお問い合わせください。
- Solaris 10 の最新バージョン、ハードウェアの互換性については、  
<http://www.sunsolve.sun.com> を参照してください。

---

**注** – Solaris 10 OS に付属しているインストール用 CD/DVD メディアやドキュメントには、SPARC プラットフォーム版と x86 プラットフォーム版があります。Sun Blade X6220 サーバーモジュールには、x86 プラットフォーム版を使用してください。

---

Sun Blade X6220 サーバーモジュールには、次の方法で Solaris OS をインストールできます。

- DVD または CD-ROM メディアから、Solaris のインストールプログラムに表示される手順に従って 1 台のサーバーにインストールします。
- Preboot Execution Environment (PXE) 技術を使用して、次の方法により、ネットワーク経由で 1 台または複数のサーバーにインストールします。
  - リモートの DVD イメージまたは CD イメージから、ネットワーク経由で Solaris のインストールプログラムを使用します。
  - JumpStart™ を使用してインストールします。
  - ディスクレスブートを実行します。
  - シリアルコンソールを使用してインストールします。
- ハードドライブにプリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステムのイメージをブートします。

Solaris 10 OS のインストール用メディアに収録されているプログラムは、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) を使用するか、コンソールから文字列を入力して実行します。Solaris インストールプログラムには、Solaris Device Configuration Assistant が含まれています。

表 5-1 に、Solaris OS をインストールする際に行う必要がある作業を示します。

表 5-1 Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップ

タスク	説明	指示書
サーバーをセットアップします。	サーバーハードウェアを設置し、サービスプロセッサを設定します。	Sun Blade X6220 サーバーモジュール設置マニュアル (820-2090)
『Sun Blade X6220 サーバーモジュールご使用にあたって』を確認します。	このドキュメントには、Solaris OS ソフトウェアおよびパッチに関する最新情報が記載されています。	Sun Blade X6220 サーバーモジュールご使用にあたって (820-2105)
システム要件を確認します。	使用するサーバーが最低システム要件を満たしていることを確認します。	表 5-2
Solaris OS のインストールに必要な情報を収集します。	収集する必要がある情報は、使用するシステム環境、および Solaris OS のインストール方法によって異なります。	「Solaris OS のインストールについて」(47 ページ)
Solaris OS のドキュメントを特定します。	ソフトウェアに付属する Solaris OS のドキュメントには、インストールについて知っておく必要がある情報の大部分が記載されています。	「Solaris 10 関連の情報の場所」(51 ページ)
Solaris OS をインストールします。	インストール方法を選択し、手順を確認します。	表 5-3
必要に応じて追加のソフトウェアをインストールします。	Solaris OS には Solaris OS ドライバが付属していますが、その他のソフトウェアは、ツールとドライバの CD からインストールする必要があります。	Sun Blade X6220 サーバーモジュールご使用にあたって (820-2105)
必要に応じてパッチをインストールします。	パッチは、次の場所にある SunSolve のパッチポータルで入手できます。 <a href="http://www.sunsolve.sun.com">http://www.sunsolve.sun.com</a>	Sun Blade X6220 サーバーモジュールご使用にあたって (820-2105)

表 5-2 最低システム要件

要件	説明
ハードウェア要件	Solaris OS をインストールする前に、サーバーハードウェアを設置し、サービスプロセッサの初期設定をしておく必要があります。
Solaris OS の最低バージョン	Sun Blade X6220 サーバーモジュールの場合は、Solaris 10。
インストールに使用するメモリ	4G バイト ~ 64G バイト。
ディスク容量	12G バイト以上。

表 5-2 最低システム要件 ( 続き )

要件	説明
スワップ領域	デフォルトのサイズは 512M バイトです。
x86/x64 プロセッサの要件	速度 120M ヘルツ以上の x86/x64 プロセッサ推奨。ハードウェアで浮動小数点を使用できる必要があります。
BIOS	業界標準の x86/x64 BIOS (フラッシュメモリに記録)。BIOS は、CD メディアまたは DVD メディアからブートできる必要があります。

表 5-3 インストール方法

方法	説明	指示書
DVD メディアまたは CD-ROM メディアからインストールします。	DVD または CD-ROM メディアに入っている Solaris のインストールプログラムを使用して、表示される手順に従って 1 台のサーバーにインストールします。	<a href="#">「配布メディアからの Solaris OS のインストール」</a> (54 ページ)
PXE を使用してネットワークからインストールします。	リモートの DVD イメージまたは CD イメージからネットワーク経由で Solaris OS をインストールする場合、または JumpStart インストールで処理を自動化して、複数のシステムにインストールする場合は、PXE インストールを実行する必要があります。 PXE を使用してネットワーク経由でブートするには、インストールサーバーと DHCP サーバーをセットアップし、ネットワークからブートする各サーバーで BIOS を設定する必要があります。	PXE インストールの設定を行うには、『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の「x86 : PXE によるブートに関するガイドライン」の手順に従ってください。 PXE を使ってブートする手順は、『 <a href="#">PXE によるネットワーク経由でのサーバーのブート</a> 」(53 ページ)を参照してください。
プリインストールイメージからブートします。	設定によっては、Solaris OS のイメージがハードドライブにプリインストールされている場合があります。	Solaris 10 インストールガイド (基本編)
シリアルコンソールからインストールします。	PXE ベースのネットワークインストールでシリアルコンソールを使用して Solaris OS をインストールします。	<a href="#">「シリアルコンソールによる Solaris OS のインストール」</a> (56 ページ)
ディスクレスブートを実行します。	ハードドライブを使用せずに、Sun Blade X6220 サーバーモジュールで Solaris OS をブートします。この方法は、PXE ベースのネットワークインストールで使用します。	『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の「x86 : PXE を使用したネットワーク経由のブートとインストール」

**注** - Solaris OS には、広域通信網 (WAN) を経由でブートするインストールプログラムなどの追加プログラムが用意されていますが、Sun Blade X6220 サーバーモジュールで使用できるのは、このセクションに記載されているインストール方法のみです。

## Solaris 10 関連の情報の場所

Solaris OS のドキュメントは、Web サイト (<http://docs.sun.com/>) で入手できます。

Solaris 10 Documentation Collection のドキュメントのリストを表示するには、「Solaris 10」を選択します。

- Solaris 10 のインストールガイドについては、次を参照してください。  
<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1236.1>
- Solaris 10 の管理ガイドについては、次を参照してください。  
<http://docs.sun.com/app/docs/coll/47.16>
- システムのアップグレードについては、次を参照してください。  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5505>
- トラブルシューティングに関する情報については、次の場所にある「付録 A」を参照してください。  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323>

Solaris 10 のドキュメントは、Solaris OS ソフトウェアに付属する Solaris Documentation DVD にも収録されています。

---

## Solaris OS をインストールする準備

Solaris OS をインストールする前に、システムに関する情報を収集しておく必要があります。計画および初期セットアップは、DVD または CD からのローカルインストール、または PXE ベースのネットワークインストールのどちらを行うかによって異なります。

また、インストールに使用する適切なメディアを入手してください。

メディア	タイトル
DVD	Solaris 10 OS <バージョン>* DVD
CD-ROM	Solaris 10 OS <バージョン> ソフトウェア CD Solaris 10 <バージョン> Languages for x86 Platforms CD Sun Blade X6220 サーバーモジュールのツールとドライバの CD
パッチ	パッチについては、『Sun Blade X6220 サーバーモジュールご使用にあたって』を参照してください。

\* <バージョン> をインストールする Solaris オペレーティングシステムのバージョンに置き換えてください。

# インストールの前提条件

Solaris OS をインストールする前に、次の作業を完了しておく必要があります。

- 使用するシステムが最低システム要件を満たしていることを確認します。

Solaris OS のインストールに関連するシステム要件のセクションを参照してください。

Solaris インストールプログラムの GUI またはテキストインストーラを使用する場合は、ローカルの DVD/CD-ROM ドライブまたはネットワーク接続、およびキーボードとモニターが必要です。詳細は、『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』を参照してください。

- Solaris OS のインストールに必要な情報を収集します。

『Solaris 10 11/06 インストールガイド (基本編)』

(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-7797>) の第 1 章にあるインストール用チェックリストを参照してください。

Solaris 10 をインストールする場合は、次を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-5775>

システムがネットワークに接続されていない場合は、インストール先システムのホスト名、およびシステムで使用する予定の言語と地域を知っておく必要があります。

システムがネットワークに接続されている場合は、チェックリストを使用して次の情報を収集します。

- インストール先システムのホスト名
  - システムで使用する予定の言語と地域
  - ネームサーバの IP アドレス
  - サブネットマスク
  - ネームサービスの種類 (DNS、NIS、NIS+ など)
  - ゲートウェイの IP アドレス
  - ドメインネーム
  - ネームサーバのホスト名
  - ネームサーバの IP アドレス
  - ルートパスワード
- Solaris OS をネットワーク経由でインストールする場合は、Solaris OS をインストールする前に、PXE ベースのネットワークインストールをセットアップする必要があります。

PXE を使って Solaris 10 をインストールするための設定を行うには、『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』

(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323>) の手順に従ってください。

Solaris 10 11/06 をインストールする場合は、次を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-6394/>



---

注 - USB を経由したリモートインストールの詳細は、使用するプラットフォームに関するドキュメント (Solaris 10 に付属) を参照してください。USB ベースのインストールがサポートされていない場合は、PXE を使用してください。

---

---

## GRUB 環境でのサーバーのブート

Solaris 10 1/06 (Solaris 10 バージョン 1/06) 以降では、Solaris OS を実行する x86 システムに、オープンソースの GNU Grand Unified Bootloader (GRUB) ブートローダが付属しています。GRUB を使うと、システムのメモリにブートアーカイブをロードできます。ブートアーカイブには、システムのブートに必要なカーネルモジュールと設定ファイルが含まれています。GRUB については、`grub (5)` のマニュアルページを参照してください。

GRUB 環境で Solaris 10 が動作している Sun Blade X6220 サーバーモジュールをブートする方法は、次の場所にある『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-2379>

---

## PXE によるネットワーク経由でのサーバーのブート

『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』も合わせて参照してください。

Sun Blade X6220 サーバーモジュールには、PXE を使ったネットワーク経由でのブートに必要な PXE の仕様が実装されています。PXE 技術により、サーバーで動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を使用してネットワーク経由で Solaris OS をブートできるようになります。また、リモートの CD または DVD イメージを使用して Solaris OS をネットワーク経由でインストールすることもできます。さらに、JumpStart シナリオを使ってインストール処理を自動化すると、Solaris OS を複数の Sun Blade X6220 サーバーモジュールにインストールする際に便利です。

PXE では、ネットワークを経由して直接ブートします。そのため、Sun Fire X6220 のクライアントシステムにブートメディアは必要ありません。

## 開始前のご注意

PXE を使用してネットワーク経由でブートするには、まず次の手順を行う必要があります。

1. インストールサーバーをセットアップします。
2. インストール先に Sun Blade X6220 サーバーモジュールクライアントを追加します。
3. DHCP サーバーをセットアップします。

手順は、ステップ 1 を参照してください。

## ▼ PXE を使ってサーバーをネットワーク経由でブートする

1. 『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』 (<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323>) の「x86 : PXE によるブートに関するガイドライン」の作業を実行します。

PXE ブートに必要なシステムをすでにセットアップしている場合は、作業マップ (表 5-1) を使用してすべての手順を実行したかどうか確認します。

2. PXE を使ってサーバーをネットワーク経由でブートします。

『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』 (<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323>) の手順に従い、画面に表示される指示に沿って作業を進めます。

BIOS が起動したら、F12 キーを押して、PXE サーバーからネットワーク経由でブートします。

---

## 配布メディアからの Solaris OS のインストール

CD または DVD を使って Sun Blade X6220 サーバーモジュールに Solaris OS をインストールするには、ここで説明する手順に従います。ここでは、Solaris インストールプログラムを使用した対話式インストールについて説明します。

Solaris 10 OS のインストール用メディアに収録されているプログラムは、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) を使用するか、コンソールから文字列を入力して実行します。GUI およびコマンドラインインターフェース (CLI) で、インストールウィザードの画面に従って OS をインストールすることができます。

---

**注** – Sun Blade X6220 サーバモジュールでは Solaris 10 がプリインストールされているため、別のバージョンの OS をインストールする場合を除き、ここで説明する手順は必要はありません。

---

## 開始前のご注意

「Solaris OS をインストールする準備」(51 ページ) で説明した作業を行います。

### ▼ 配布メディアから Solaris OS をインストールする

1. システムをいったん終了してから、電源を再投入してブートします。  
サーバ BIOS が、DVD または CD からブートされます。
2. Solaris 10 OS の DVD または CD を、Sun Blade X6220 サーバモジュールに挿入します。
3. 『Solaris 10 11/06 インストールガイド (基本編)』

(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-7797>) の第 2 章にある「x86 : Solaris インストールプログラムによるインストールまたはアップグレード」の手順に従います。

ステップ 4 から始めてください。プロンプトが表示されたら、設定に関する質問に回答しながらインストールを完了します。

画面のデフォルト値をそのまま使用すると、ハードディスク全体のフォーマット、自動レイアウトのファイルシステムの使用、およびすでに選択されている一連のソフトウェアのインストールを実行できます。インストールをカスタマイズして、ハードディスクのレイアウト変更、Solaris の fdisk のパーティション変更、およびインストールするソフトウェアの選択を行うこともできます。

---

# シリアルコンソールによる Solaris OS のインストール

Solaris のテキストインストーラを使用すると、Solaris OS インストールプログラムの指示に従って端末またはコンソールウィンドウ内で情報を入力することができます。シリアルコンソールから PXE を使って、Solaris 10 OS を Sun Blade X6220 サーバーモジュールに ネットワーク経由でインストールする場合は、この手順に従います。

## 開始前のご注意

シリアルコンソールをセットアップする前に、次のシステムを、PXE ベースのネットワークインストールに対応するようにセットアップする必要があります。

- インストールサーバー
- DHCP サーバー

システムを設定するには、『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323>) を参照してください。

## ▼ シリアルコンソールを使って Solaris OS をインストールする

---

**注** – ステップ 1 ~ 3 については、『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323>) を参照してください。

---

1. 端末をサービスプロセッサのシリアルポートに接続します。  
端末には、VT100、ターミナルエミュレータを実行する PC、またはターミナルサーバーを使用できます。
2. 端末の受信速度を 9600 ボーに設定します。
3. インストール先のサーバーに x86 クライアントを追加し、インストール時に使用するブートデバイスを指定します。  
インストールクライアントのセットアップ時にブートデバイスを指定すると、インストール時に Device Configuration Assistant でこの情報を入力する必要がありません。

この例では、共通の値として次の値を使用します。

- クライアントの MAC アドレス：00:07:e9:04:4a:bf
- サーバー IP アドレス (GRUB のみ)：192.168.0.123
- クライアントのマクロ名 (GRUB のみ)：01000039FCF2EF

OS のバージョン別のコマンドを次の例のように実行します。

■ Solaris 10 3/05 システムの場合

```
# cd /export/boot/Solaris_10/Tools
# ./add_install_client -d -e "00:07:e9:04:4a:bf" \
  -b "console=ttya" \
  -b "bootpath=/pci@0,0/pci1022,7450@1/pci8086,1011@1" i86pc
```

■ Solaris 10 1/06 以降 (GRUB ブート) の場合

```
# cd /export/boot/Solaris_10/Tools
# ./add_install_client -d -e "00:07:e9:04:4a:bf" \
  -b "consolatory" i86pc
# datum -A -m 01000039FCF2EF \
  -d ":BootSrvA=192.168.0.123:BootFile=01000039FCF2EF:"
# pntadm -f 01 -A $CLIENT_IP -i 01000039FCF2EF \
  -m 01000039FCF2EF $CLIENT_NET
```

---

注 - コマンドやオプションの詳細は、各コマンドのマニュアルページを参照してください。

---

4. サービスプロセッサに Administrator としてログインします。

5. 次のコマンドを入力して、シリアルコンソールを起動します。

```
start /SP/console
```

6. Sun Blade X6220 サーバーモジュールをブートします。

『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』

(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323>) の手順に従ってください。

プロンプトが表示されたら、次の作業を実行します。

- F12 キーを押して、PXE サーバーからネットワーク経由でブートします。

システムがインストールされたら、ログインして `eeprom` コマンドを実行し、`bootenv.rc` を次のように変更します。

```
eeprom input-console=ttya
```



# 索引

---

## D

DHCP サーバーの設定 25

## G

GRUB 環境でのブート 53

## N

neopxe デーモンの設定 27

NFS サービスの設定 29

## P

portmap、インストール 26

PXE インストール

RedHat Enterprise Linux 23 ~ 34

CD からのファイルのコピー 25

DHCP サーバーの設定 25

neopxe デーモンの設定 27

NFS サービスの設定 29

portmap のインストール 26

PXE インストールイメージの設定 30

PXE サーバーからインストール 33

TFTP サービスの設定 26

ネットワークの事前設定 24

ファイアウォールの無効化 29

RedHat Enterprise Linux 用の事前設定 24

Solaris 10 53 ~ 54

PXE の設定

Sun Installation Assistant 13 ~ 14

PXE ブート 13

## R

RedHat Enterprise Linux

PXE インストール

CD からのファイルのコピー 25

DHCP サーバーの設定 25

neopxe デーモンの設定 27

NFS サービスの設定 29

portmap のインストール 26

PXE インストールの作成 30

PXE サーバーからインストール 33

TFTP サービスの設定 26

ネットワークの事前設定 24

ファイアウォールの無効化 29

PXE インストールの作業マップ 23

前提条件 18

ソフトウェアのアップデートまたはパッチ 17

メディアからインストール 18

メディアキットの入手 18

RedHat Enterprise Linux のインストール

PXE インストール 23 ~ 34

RHEL 20

## S

SLES→「SUSE Linux Enterprise Server」を参照

Solaris 56

Solaris 10 のインストール

PXE インストール 53 ~ 54

概要 47 ~ 51

準備作業 51 ~ 53

シリアルコンソールからインストール 56 ~ 57

メディアからインストール 54 ~ 55

SPARC アーキテクチャー 47  
Sun Installation Assistant 48  
  PXE の設定 13 ~ 14  
  エラーメッセージ 8  
  概要 7 ~ 8  
  使い方 9 ~ 12  
  ログファイル 8  
SUSE Linux Enterprise Server 10 のインストール  
  PXE インストール 42  
  配布メディアからのインストール 35 ~ 43

## T

TFTP サービスの設定 26

## Y

YaST ユーティリティ 37

## あ

イメージ 30  
インストール  
  portmap 26  
インストールの準備作業  
  Solaris 10 51 ~ 53  
エラーメッセージ  
  Sun Installation Assistant 8  
オペレーティングシステムのインストール  
  RedHat Enterprise Linux 15 ~ 34  
  Solaris 10 47 ~ 57  
  SUSE Linux Enterprise Server 35 ~ 43  
  概要 1 ~ 3

## さ

作業マップ  
  RedHat Enterprise Linux PXE インストール 23  
サポートされるプラットフォーム 47  
シリアルコンソールからインストール  
  Solaris 10 ?? ~ 57, 56 ~ ??  
製品のアップデート  
  Sun Blade X6220 サーバーモジュール ix  
前提条件  
  RedHat Enterprise Linux メディアインス  
  トール 18

## た

ダウンロード  
  Sun Blade X6220 サーバーモジュール ix  
ドキュメント  
  RHEL 16  
  SLES 35  
  Solaris 10 オペレーティングシステム 51  
  Sun Blade X6220 サーバーモジュール ix

## は

ハードウェアの互換性 47  
表記上の規則 xi  
ファイアウォール 37  
  無効化 29  
ブート、GRUB 53  
ブートサーバー 13  
プラットフォーム、x86 および SPARC 47  
プロキシサーバー 37

## ま

メディアからインストール  
  Solaris 10 54 ~ 55

## ら

リモートコンソールからインストール  
  RedHat Enterprise Linux 21 ~ 22  
ログファイル、Sun Installation Assistant 8